

# 大好きな西脇で暮らす

全国的に人口の減少が進み、東京への一極集中が加速しています。そのような中で、西脇市では、人口減少対策の一環として、西脇ファッション都市構想や空き家バンク制度などを通じて、地元回帰や外部からの移住（U・I・Jターン）を促進しています。就職や起業、教育、子育てなど、さまざまな理由で西脇市を選び、U・I・Jターンされた方の暮らしを通して、私たちが暮らす西脇の魅力を再発見しましょう。

## 続く人口減少

日本はすでに人口減少社会に突入し、さらに減少率は加速すると見込まれています。若年人口が減少する一方で、老年人口が増加しており、65歳以上の割合を示す高齢化率は上昇しています。また、全国的に地方から都市部への人口流出も続いており、早急な対策が求められています。

このような中、西脇市では、市の現状や将来の展望を踏まえながら、本市が将来にわたって活力ある地域社会を維持していくために、「西脇市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成27年度に策定しました。

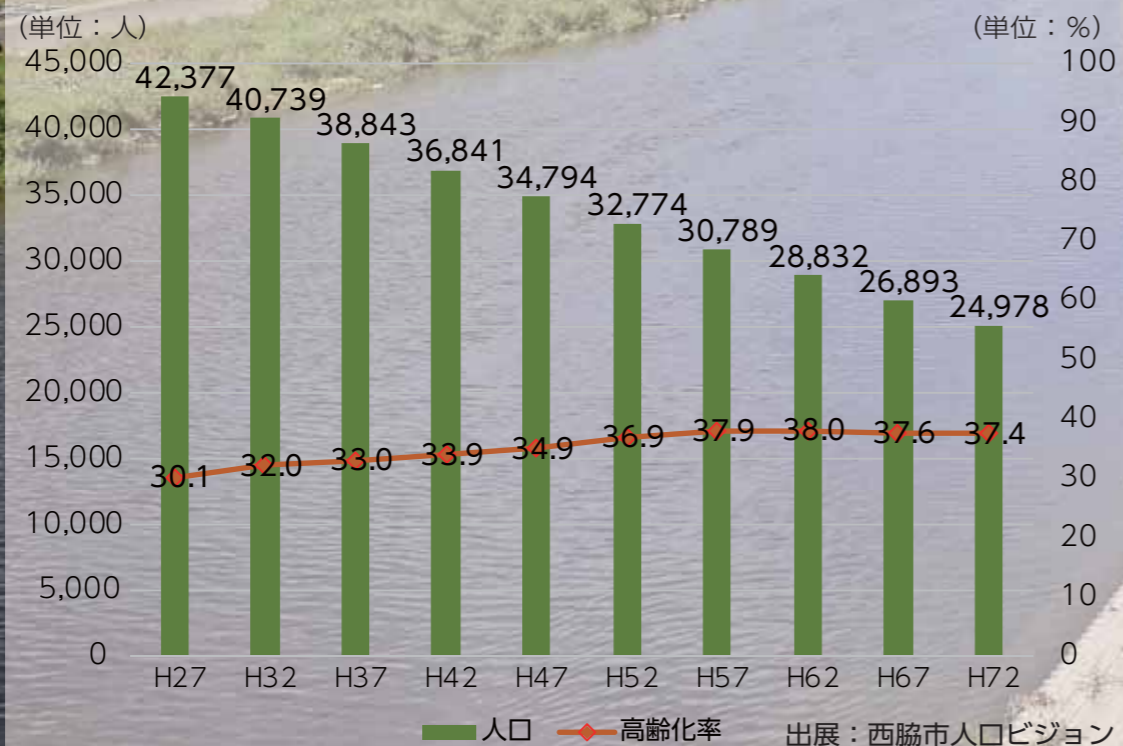
## 西脇市への移住を促進

現在、総合戦略のもとで、地域産業が活性化され、若い世代が生き生きと暮らし、活躍できるまちを目指して、本市で生まれ育った若者の地元回帰（Uターン）や、都市部など市外から本市への移住（I・Jターン）を進めています。また、外部から人を呼び込むことで、地場産業や農業などの担い手不足の解消と地域の活性化を目指しています。

\* \* \*

実際に本市で暮らすことを選ばれた方々にとって、本市にはどういった魅力があったのでしょうか。お話を伺いました。

■西脇市の人口予想と高齢化率





## 西脇の暮らしについてお聞きしました

私たちが暮らす西脇市。  
西脇の暮らしに魅力を感じてUターンする人たちがいれば、西脇の暮らしに憧れや夢を抱いて移住する人たちもいます。西脇の何に魅力を感じ、このまちを選んだのか、本市へ移住された4組の方に伺いました。



おざわひろこ  
小沢寛子さん・夏都さん  
横浜市から移住

### ■移住したきっかけ

以前から「自然豊かな環境で、伸び伸びと子どもを育てたい」と考え、娘の教育に適した環境を求めて全国の小学校を見て回りました。

その中でも双葉小学校の学習環境をとて気に入り、西脇市への移住を決めました。タイミング良く、良い状態の空き家が見つかったことも大きかったですね。

### ■西脇市での暮らし

都市部に住んでいたところと比べて、西脇市ではとても広々とした住まいを持つことができました。近所の



### 学習環境に満足

### ■西脇市の魅力

方から畑を借りることができて、今では野菜づくりも楽しんでいきます。娘も双葉小学校をとて気に入っています。自然豊かな環境で、さまざまな体験を通して楽しみながら学んでいます。

近所の方々はとても親切で、娘のことを気にかけてもらっています。ときには、夕飯のおかずを近所の方から分けてもらうことも。顔の見える近所付き合いがあることは、子育てする上でとても安心です。西脇市は自然が豊かで、恵まれた環境で子育てができることに満足しています。



すぎもとまな  
杉本真奈さん  
Uターンして地元で就職

### ■西脇市で就職したきっかけ

かつて実家が機屋を営んでいて、幼いころから播州織は身近な存在でした。大学時代に播州織工房館でアルバイトをしていたとき、縁あって播州織ストールのデザインや販売をさせていただく機会がありました。都市部にあるデパートの売り場で販売したときに、播州織があまり知られていないことを感じた一方で、多くのお客さまから「すごく良い生地やね」と褒めていただき、播州織の可能性を感じました。この経験で「播州織の仕事に就きたい」と思うようになり、産元商社の内外織物株式会社を就職先を選びました。

### 播州織の可能性を感じて

■西脇市で叶えたい夢  
自分でデザインした生地で、洋服を作りたい。市内には「染め」「織り」「加工」の工場が集積して、蓄積された技術があり、ものづくりができる環境が整っています。播州織に携わる人は優しくオープンで、分らないことがあれば丁寧に教えてもらえます。このように恵まれた環境を生かして、もっと播州織を外部に発信していきたいですね。



いけだゆうすけ  
池田雄亮さん  
神戸市から移住

### ■移住したきっかけ

神戸市内で料理人として修業を積んでいたときに、同業者から「西脇市内に新しくオープンするカフェの店長として働かないか」とお誘いをいただきました。知らないまちでの仕事に少し不安はありましたが、「自分の力を試すのにいい機会」と考えて、思い切っで西脇市への移住を決めました。

### ■西脇市での暮らしと仕事

移住してからの日々はとても忙しくて、辛いこともありましたが、その間にたくさんの人と知り合うことができました。約2年間店長として働いたあとに、神戸に戻るかどうか悩みました。そんなとき



### 人が温かいまち

### ■西脇市で叶えたい夢

今は南旭町で「鉄板Bai Sel Pele」を営業しているので、同じ商店街の仲間と一緒にまちを盛り上げるイベントを開催したいです。今後は新たな飲食店をオープンして、私と同じような夢を持つ若手の料理人を養成したいです。「都市部と比べて地方にはないものが多い」という声をよく聞きますが、西脇にしかないものを創っていききたいですね。

に、当時のお店のお客さんが「自分のお店をやつてみないか」と言っていて、条件の良い空きテナントを紹介してくださったんです。西脇は人が温かく、つながりを大事にするまち。そのおかげで、長年の夢だった自分の店を持つことができました。

## 市移住・定住促進室から

市では、Uターンも含めた移住・定住促進に取り組んでいます。平成28年4月に次世代創生課内に移住・定住促進室を設置し、住まい探しや相談への対応を行うなど、地域や関係機関と連携して移住希望者への支援を行っています。

平成27年度に策定した西脇市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、基本目標のひとつに「地元回帰と新たな外部人材の流入の促進」を掲げました。今後もさまざまな施策を展開して、西脇市で生まれ育った若者のUターンや、地域が必要とする人材のIターンを促していきます。

お知り合いの方で、本市への移住を検討されている方がおられましたら、移住・定住促進室へご相談ください。

### ■問合せ

移住・定住促進室（次世代創生課内／市役所内線397）

今年度は小学校のPTA会長に就任しました。PTA会長の仕事を通して、多くの保護者と知り合うことができましたし、学校の先生方とも直接話す機会が増えました。先月にはその縁で中学生向けに私のライフスタイルについて講演する機会もいただきました。



の暮らしが豊かになることを期待しています。

■移住したきっかけ  
西脇市出身の妻の出産を機に、市内に数日間滞在しました。生後間もない息子を抱っこしながら、妻の実家近くの川沿いを散歩していたときに、「こんな自然豊かな場所子育てがしたいな」と思い、西脇市に移り住むことにしました。

■西脇市での暮らしと仕事  
今は、西脇市に住みながら、本社が東京都にある会社に所属しています。基本的に自宅が職場で、プログラマーとして働いています。「地方には仕事がない」という声をよく聞きますが、今はICT

## 豊かな自然に包まれて子育て

■西脇市の魅力  
西脇では、四季の移り変わりを目と肌で感じることができます。子どもたちと一緒に花を摘んだり、川遊びをしたりと、子育てをするのにとっても良い環境です。日常生活の面でも、西脇市は都市部より便利だと思っています。市内には日常生活に必要な店が全てそろっていて、車で数分走れば買い物を済ませられるところも気に入っています。

■地域での活動  
西脇に移住して10年近く経ちますが、自分の能力や経験を生かして地域活動に取り組んでいます。

## 伊藤淳一さん 豊中市から移住



（情報通信技術）が普及しているので、地方に住んでも多様な働き方ができるようになっています。ここに移住したことで、以前のように満員電車で通勤する必要がなくなり、都市部では考えられないくらい広々とした住まいを持てることができました。近所に気兼ねなく、趣味の楽器演奏を楽しんでいます。

### 定住促進サイト

「ほっこり、のんびり にしわきごっこ」

定住促進サイトでは、本市への移住・定住を検討する際に必要な情報を「子育て」「教育」「暮らし」の категорияに分けて掲載しています。

また、本市へ移住された方々にインタビューし、さまざまな視点から見た本市の魅力について紹介しています。



▲定住促進サイト

### 空き家活用モデル事業

地域による自立的な空き家の解消を図るため、重春・野村地区交流推進委員会を実施主体として、空き家の新たな活用方法を検討するモデル事業を行っています。空き家は移住者向けの住まいとして活用することを検討しており、ワークショップを重ねながら入居者を募っていきます。



▲ワークショップの様子

### 空き家バンク制度

空き家の売却や賃貸を希望する方から提供を受けた情報を、空き家の購入や賃貸を希望する方へ提供する制度です。空き家の情報は市ホームページなどで公開しています。



### 兵庫県の移住相談窓口

県内への移住・定住に関する相談の対応や市町の移住支援などの情報を提供しています。相談窓口は神戸市と東京都に設けられています。

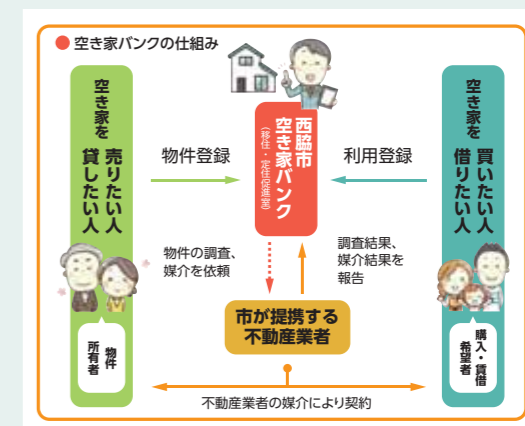
また、西脇市では、カムバックひょうご東京センターと連携して、東京圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）からの移住希望者へ市内訪問時の宿泊費を助成しています（諸条件あり）。

#### ■カムバックひょうごセンター

（開設日時）  
月曜日～金曜日＝午前10時～午後6時30分  
土曜日＝午前10時～午後5時30分  
（所在地）  
神戸市中央区東川崎町1-1-3（6階）  
☎078-360-9971

#### ■カムバックひょうご東京センター

（開設日時）  
火曜日、水曜日、金曜日＝午前10時～午後6時30分  
土曜日＝午前10時～午後5時30分  
（所在地）  
東京都千代田区大手町2-6-2（3階）  
☎03-6262-5995



▲空き家バンク制度の仕組み